

踊りに行くぜ!!Ⅱ 東京振替公演をみて

スペースベン 主宰 田中勉



5月14日午後6時、心待ちにしていた、踊りに行くぜ!!Ⅱ東京振替公演をみる事ができた。「振替公演」と銘打たれているのは、実はこの東京公演は、当初3月11日と12日に予定されていたからである。

言うまでもなく、あの3月11日。スタッフもほぼ仕込みが終り、出演者も本番に向けて最終調整に入っていたであろうその時、東日本大震災に襲われた。

堅牢なアサヒ・アートスクエアも例外なく大きな揺れに襲われたものの、関係者はまだ大震災の全容を知る由も無かった。そのため、11日と12日の公演実現に向けて、あれこれ策を練っていた頃に違いない。

しかし状況が少しずつ見えてきた中で、今日の公演は無理だということが分かり、その後はJCDNの水野さんはじめ、アサヒ関係者も、まずは出演者とスタッフの宿泊場所の確保に奔走したと伺っている。その時点ではまだ翌日の公演は何とかかなと思っていたのかもしれない。

いずれにしても、3月の上演は流れてしまい、JCDNの佐東さんも、振替公演の時期について考える余裕もなかった時期であったろう。しかし、そこは流石、こんな時期だからこそ、何としても早く振替公演をやらねばと、佐東さんたちは思い立ったとのこと。アサヒ側の協力もあり、思ったより

早く、この5月の公演にこぎつけたわけである。

さて、上演は、村山華子・作・演出の「カレイなる家族の食卓」前納依里子・作・演出の「CANARY I'S」の様相、上本竜平・作・演出の「終わりの予兆」の3作品である。

実は、上本作品以外は、今年2月のポータルミュージアムはつちのオープニングに合わせて開催された「踊りに行くぜ!!Ⅱ」八戸公演でも上演された作品であったが、



私は諸事情から全作品とも見られなかったこともあり、殊更期待が高まっていたことは言うまでもない。

余談ではあるが、はつちでの上演順を決める際にも、出演者、スタッフで喧々諤々とした議論が繰り広げられ、その話し合いには私も同席しており、傍からみればムダな作業にしか見えなかったかもしれないが、それはそれは大切で有意義な話し合いであった。ものづくりは、このようなところから始まっているという典型のようなものであり、常に前向きなチャレンジ精神が感じられた。

いざ、作品をみてみると...

三作品とも巡回公演をする中で初演からだいぶ練り上げた、というか、揉まれてきたのであろう。

もちろん全作品をみてきたわけではないが、「何故この作品をつくりたかったのか? 何故踊りに行くぜ!!Ⅱだったのか?」。そんなおもしろいひしひしと感じられた。

村山作品の、軽妙なタッチでいながら、金食って物に替えていくやぎにたとえた家族の重厚な関係性。前納作品のどこまでもストイックな自分と現代社会との対峙。上本作品の整然としつつも混沌としたダンスへの敬虔な問いかけ。三作品上演後の、アーティスト本音トーク? も興味深かった。

東日本大震災は、多くの命を奪い、甚大な被害を各方面に及ぼしているが、それを踏まえ乗り越えようとした活動が、確かにここにはあったことを忘れてはならない。



Friday Amusement Negative Shop

○FANS予定 904~907'回 朗読劇:「心のまちに...」/ 脚本:加藤健太郎 / 出演:田中勉
6/3,10,17,24 19:30開演 6/4,11,18,25 14:00開演

演劇空間

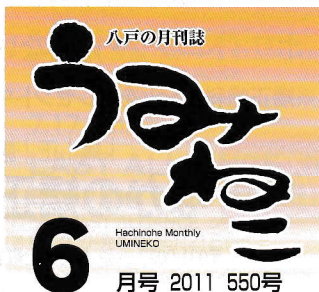
スペースベン

■八戸市柏崎1-11-8
TEL. 0178-43-9876
FAX. 050-3588-8350
携帯. 080-6025-0990

※特別番組以外全て午後7時30分~、料金/一般前売400円 高校生以下100円(当日100円増)
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。
HP <http://spaceben.com/> Eメール owner@spaceben.com

6月号好評発売中!

●今月のテーマエッセイ	通う
病院通い.....	仁科源一
白い車.....	関本真二
3・11.....	元有朋子
ポストの鮎.....	馬克美
毎日が、おいしい.....	濱橋
アメリカ現地校.....	



●今月のインタビュー

日本体育協会公認スポーツ指導員

関下りち子さん(53歳)に聞く

読む楽しさ **読物満載**

毎月ご愛読ありがとうございます

発行所/うみねこ出版社
八戸市六日町10 いわとくパルコ3F
TEL・FAX 0178-44-6636